

へきけんニュース

【ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/】

へき地教育に関するオンデマンド研修ビデオ・資料・フォーラム等のお知らせなどが豊富に掲載されています！

✉ kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学釧路校

令和5年度 北海道教育大学釧路校：教職意欲を高めたへき地校体験実習を無事終了



北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
釧路校へき地教育アドバイザー 荒川 浩一

4月から募集を開始し、準備を進めてきた令和5年度のへき地校体験実習。11月中旬に、予定されていたすべての学校での実習が終了しました。新型コロナウイルス感染症については、その位置づけが5類に移行したものの依然感染拡大の兆しが見られ、体調管理はもちろん、検査キットを用いる等の対応が続きました。加えて今年は猛暑や熊の対策についても配慮しながらの実習となりましたが、特に大きな問題もなく終了できました。

これも、実習の意義をご理解の上、丁寧なご指導をいただいた受け入れ各校及び各市町村教育委員会のご協力によるものです。心から感謝申し上げます。

極小規模校の多様な実践を学んだ へき地校体験実習報告会を開催


実習Ⅰ：12月6日(水) 実習Ⅱ・Ⅲ：12月13日(水)



▲越川 茂樹キャンパス長 挨拶

釧路校では、大きく分けて「実習Ⅰ（2年生対象、1週間）」と「実習Ⅱ・Ⅲ（3・4年生対象、2週間）」のそれぞれが時期をずらして実習を行いますが、いずれも今年度は実習校及び参加者が大きく増えました。

令和5年度 釧路校へき地校体験実習の流れ

へき地校体験実習Ⅰ (2年生 1週間)	へき地校体験実習Ⅱ・Ⅲ (3・4年生 2週間)
4月 ←実習生募集ガイダンス → 5月	
	
5月12日 配属校決定 6月6日 オリエンテーション 6月16日～事前指導 計4回(心得、実習の流れ、 目標、実習手帳記入法 等) 8月7日～実習校ごとに 直前指導開始(1~2週間前を目途)	6月上旬 希望者面接 6月21日 配属校決定 7月6-13日 実習生顔合わせ 7月28日 全体事前指導 8~9月 実習2週間前を 目途に事前面接 ※遠方の実習校に関しては Zoomでの打ち合わせを実施 (前後に直前指導)
8月21日 愛国小学校、笹川 小学校、上幌内小学校を 皮切りに実習スタート 20校で42名が実習	9月25日 阿寒湖義務教育 学校を皮切りに実習スタート 16校で33名が実習
事後指導(実習手帳、アンケート等の提出)、報告書の提出	
12月6日(水)	12月13日(水)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">実習報告会</div>	

報告会は実習生の数が増えた関係で、実習Ⅰ、実習Ⅱ・Ⅲともに報告時間の確保を狙い、分散同時開催によって行いました。

いずれも ZOOM で各実習校の参加もいただけるようにしましたが、学生の講義の関係で、午後6時開始、退勤時間を過ぎてからの開催となってしまいました。それにもかかわらず、多くの実習校の参加をいただくことができ、学生にとって大きな励みになりました。本当にありがとうございました。



自分の経験を越えた発見の連続！！ 実習Ⅰ 報告会

この報告会は、実習校の特色ある教育活動や実習の成果・課題を交流するなかで、へき地・小規模校教育の現状理解と実践的な力量を高めることを目的としたものです。

個々の子どもに しっかり向き合う大切さの発見



報告会のテーマは「心をこめて」

実習Ⅰで例年も多く聞かれるのは、「(週一度のフィールド実習とは違い) 1週間という短い期間だが、毎日子どもたちと続けて向き合うことで、あらためて子ども一人一人としっかり向き合うことの大切さを学んだ」ということです。「子どもとの距離感」についても実習課題としてあげる学生が多く、新たな発見、目標を見出したという声が聞かれました。

新型コロナ感染対策がある程度緩められた関係で、地域や子どもたちと交わる機会も増えたようで、休み時間等でたくさん遊ぶことができたことが何より楽しかったようです。



小・中学校の異校種での大きな学び

今年度は中学校での受け入れが特に増えました。将来は小学校の教員になりたいという学生が比較的多いのですが、原則実習希望者は学校種を選ぶことはできません。しかし中学校で実習を行った学生



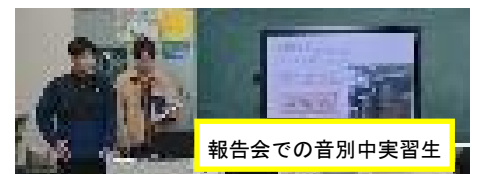
計20校 42名



教職意欲の高まり

- ・中学校の魅力に気づいた!!
- ・子供と関わる楽しさを実感した!!
- ・自分の強みと課題を再確認した!!

の多くが、事後指導や報告会の中で「中学校の魅力を実感し、就職に関する選択肢が広がった」と述べていました。



「発達段階に関する学びをすることができた」と言う学生も多く、これについては義務教育学校や小中学校で実習した学生も同様の感想を述べています。また中学校では、自分のキャリアや将来の夢に関するプレゼンをさせていただいた学校が多く、子どもが真剣に聞き入れてくれたことばかりでなく、苦労しながらも自分で考えたことを伝える喜びを感じたようです。

子どもに提供する教育活動を自ら企画する喜び



音別小での企画レク「じゃんけん列車」

中学校実習でのプレゼンに対し、多くの小学校では、自分たちで企画したゲーム等の活動を実施させていだきました。苦勞して計画した企画で子どもたちが喜んでくれることに大きな喜びを感じたようで、「主体性」を育てることの大切さを自ら感じることができました。

主体性を育てることの重要性については、ほとんどの実習生が報告しており、中には実習生自らが授業観察のプログラムを考え、主体的に実習に取り組むよう仕向けていただいた学校もありました。



西中音更小での学生オリジナル企画のゲーム説明の様子

主免実習と比較した より深い学び 実習Ⅱ・Ⅲ報告会



フロアーに語りかけるような発表

実習Ⅰ同様、3・4年生対象の実習Ⅱ・Ⅲも昨年度を大きく上回る33名の学生が実習に臨みました。その多くが、実習Ⅰ（2年時）や実習Ⅱ（3年時）で既にへき地校



熱心な質疑も

体験実習を経験したことのある学生で、観察が中心であった実習Ⅰでの学びを、「自ら授業をすることで、より深いものにしたい」という熱意が主な動機ようです。

実習Ⅲ（4年生）を希望する学生が多かったことも今年度の特徴で、「現場に出る前に実際に子どもたちを前にし、自分の課題を見つめなおしたい」という気持ちから希望しているようです。

報告会には実習Ⅰを修了した学生や1年生も参加し、熱心に聞き入っていました。



修了証を受け取って

令和5年度へき地校体験実習Ⅱ・Ⅲ 実習協力校・実習生数・実習期間

学校名	人数	実習期間
釧路市立阿寒湖義務教育学校（前期）	2	9月25日(月)～ 10月6日(金)
弟子屈町立美留和小学校	2	10月10日(火)～ 10月20日(金)
釧路市立山花小学校	2	
釧路町立昆布森小学校	3	
標茶町立磯分内小学校	2	10月16日(月)～ 10月27日(金)
弟子屈町立川湯小学校	2	
弟子屈町立和琴小学校	3	
浜中町立散布小中学校	2	
釧路町立知方学小学校	2	10月23日(月)～ 11月2日(木)
根室市立落石小学校	3	
標茶町立沼幌小学校	2	
別海町立上風連小学校	2	10月30日(月)～ 11月10日(金)
鶴居村立幌呂小学校	1	11月6日(月)～ 11月17日(金)
鶴居村立下幌呂小学校	2	
白糠町立茶路小学校	1	
根室市立海星学校	2	

計16校 33名

複式授業 やって初めてわかる大変さと可能性

すべての学校で複式授業を経験できたわけではないのですが、複数の学年を一度に指導するという事は、最も印象に残る体験の一つです。大学での講義で学生仲間を児童に見立てた模擬授業の経験はあっても「実際の子どもたちを前にすると全く違う」、「やってみなければわからない大変さがある」等、苦戦したという声も多い一方で、「この経験は小規模校以外の学校でも活用できそう」と手ごたえを感じている学生もいました。



美留和小 本番前、先生たちに協力いただいた模擬授業



上風連小学校での実践の様子

04 実習校での学び 散布小中発表のスライドより

●複式授業の難しさ

- ・45分の限られた時間内で2学年分の指導内容を終えること
- ・児童の考えを見取る時間と場の確保

●教える面白さ

- ・児童の予想外の見方・考え方

より高まった教職意識と教職志望

「教職意識が高まった」という言葉は最も多く聞かれる言葉ですが、それと同時に今後の「自分の課題を具体的にを見つけることができた」という声もよく聞かれます。必ずしも成功体験ばかりではなかったはずですが、常に前向きに努力していこうとする姿勢がどの学生からも感じられ、頼もしく思いました。

学校現場と連携しつつ これからも感謝の気持ちを大切に

実習Ⅰ、Ⅱ・Ⅲともに短期間の実習とはいえ、事前の準備、そして実習終了後も「実習手帳」の仕上げ、「報告書」の作成、「報告会」の準備など、忙しい日々が続きます。そういった作業にも価値を見出して、しっかり乗り越えたことも立派ですが、それが決して自分たちの努力ばかりではなく、まわりの多くの人たちから支えられて成し遂げたことであることに気づいたことも大きな成果です。

実習校の先生たちから学校外の生活に関しても様々ご配慮いただいたということも学生たちから報告を受けています。また、教員住宅の整備など、実習中の学生たちにはあまり気づかない部分でも、教育委員会等から多大なサポートをいただいていることを伝えると、自分たちへの期待と受けとめ、頑張る気持ちを新たにしています。かかわっていただいた実習校、教育委員会の皆様には、心から感謝申し上げます。

へき地校の生活環境・地域にふれ、 共同生活を通しての学び

実習生たちの報告は、それぞれ8分という短い時間であったために、地域の特色に触れる時間は限られていましたが、特に実習Ⅱ・Ⅲでは週の間の土曜、日曜等を利用して地域の良さを味わうことができたようです。



阿寒湖義務教育学校（前期）発表のスライドより

- ・「**毎日の積み重ね**」が学校生活
→一朝一夕で望むような成果はでない
- ・「**教員になりたい気持ち**」が強まった！！
→1番近くで子どもたちの成長を携わって見届けられることの嬉しさ 😊 感動 🌟
- ・**教員になるためにも…**
今回明らかになった**自己課題**を今後の生活で解決していくことが必要！



Zoomで担当の先生からコメントをいただいている様子。忙しい現場を体験した後ということもあり、勤務時間外にもかかわらず実習後も見守ってくださったことに、学生たちも感激。本当にありがとうございました。



実習生活について

実習Ⅱ・Ⅲ報告会スライドより
(上) 川湯小学校 (下) 下幌呂小学校



充実した実習生活

実習報告会を終えて



小野豪大先生

高崎優子先生

砂川典子先生



遠藤健樹先生

榎澤 実先生

各教室で担当の先生から講評をいただきました

報告会終了後はそれぞれの会場で、小野豪大へき地校体験実習部会長をはじめ、各部屋を担当する地域委員会、へき研センター員の先生から、報告にかかわるコメント、今後の意欲的な活動に期待する言葉をいただきました。

実習Ⅰ報告会で司会進行を務めてくれたのは、実習Ⅱ・Ⅲの実習を終えた3・4年生。実習Ⅱ・Ⅲの報告会では実習Ⅰの実習を終えた2年生の皆さん。自分たちのコメントもはさみながら臨機応変に会を進行してくれました。特に上級生の報告会で進行役を務めた2年生たちはあらためて大きな刺激を受けたようで、次のように語ってくれました。

「自分たちの経験した実習よりもはるかにレベルが高く、教師になるためのスキルアップにつながるがよくわかった。実習Ⅰの経験を踏まえ、実習Ⅱ・Ⅲにも絶対に参加する価値があると確信した！」。



実習Ⅱ・Ⅲ報告会で進行を務める2年生(手前2人)